

日交研シリーズ A-791

平成 31 年度自主研究プロジェクト

「新興国・途上国の都市公共交通の計画論に関する研究」

刊行：2020 年 11 月

新興国・途上国の都市公共交通の計画論に関する研究

A study on planning theory for urban public transportation in developing countries

主査：中村 文彦（横浜国立大学）

Fumihiko Nakamura

要 旨

本研究では、平成 27 年度、平成 28 年度、平成 29 年度、平成 30 年度に自主研究として採択いただいた新興国・途上国の都市公共交通政策に関する一連の研究成果をもとにして、対象地域を、アジア諸国、中南米やアフリカの、新興国・途上国地域全般でとらえ、バスなど都市公共交通の政策論について、実践的な側面と学術的な側面から、そのあり方を明らかにすることを目的に研究を推進した。

昨年度までの成果に基づいた問題意識として、すでに深刻になっている環境問題、徐々に影響の出始めている少子高齢化問題、加えて政情の不安定さに起因する政策実行可能性の問題、一方で急速な技術進展のある情報通信技術普及にかかる課題などについて、公共交通政策との関係を十分に勘案した政策論の検討を十分に行う必要性を確認している。

そこで本年度は、アジア、アフリカ、南米の新興国・途上国での都市公共交通にかかるケーススタディ、新興国・途上国の都市交通にかかる文献研究、それらをもとに、これまでの研究蓄積も活かし、新興国・途上国の都市公共交通の政策論について、環境問題、高齢化問題、社会制度問題などとのつながりを念頭に研究会メンバーで討議をし、政策論のあり方を明らかにすることを目的とした。情報技術進展については、MaaS (Mobility as a Service)や自動運転技術にかかる議論の新興国・途上国への波及も視野にいった。

キーワード： 途上国、都市交通、バス、MaaS

Keywords : Developing Countries, Urban Transportation, Urban Bus, MaaS